

事務事業名	定住支援員配置事業(専属スタッフ配置)	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
政策名	(I)みんなで築くまち<<協働・行政経営>>	所属G	うんなん暮らし推進グループ	課長名	奥田 清
施策名	(02)移住・交流の推進	担当者名	安部真美	電話番号	0854-40-1014
目的:対象	市外の人・市民	意図	雲南市を好きになり、移住・定住してもらう。	(内線)	2321
基本事業名	(006)移住のための相談・支援体制の充実	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 0 0 3 項 目 中事業 中事業名 0 5 6 5 0 7	定住対策促進事業 定住支援員配置事業	
目的:対象	市外の人・市民	意図	安心して移住・定住してもらう。		

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (27年度~)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	移住定住のための情報発信や、空き家等の住居相談、就業・就農相談、定住後の生活サポートなどのワンストップ窓口を提供するため、定住支援専門スタッフとして定住推進員(3名)と定住企画員(2名)を配置する。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	28年度実績(28年度に行った主な活動) ・定住相談への対応(住居情報の提供、就業就農支援、定住後のフォロー) ・空き家バンクの運営	29年度計画(29年度に計画する主な活動) ・定住相談への対応(住居情報の提供、就業就農支援、定住後のフォロー) ・空き家バンクの運営			
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
ア	相談件数	件	212	282	415	400
イ	空き家調査件数	件	32	41	41	40
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	市民・市外から移住を考える人	ア 相談件数	件	212	282	415	400
		イ 空き家バンク登録数	件	32	41	41	40
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	雲南市へ定住してもらう	ア 市外から移住した世帯数・人数(定住推進員・企画員が関わったもの)	世帯・人	22・44	43・80	39・76	50・123
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)
報酬 11,016千円 (定住推進員報酬6,120千円・定住企画員報酬4,896千円)	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円		10,500	11,000	8,950
	その他	千円				
	一般財源	千円		54	16	26
	事業費計(A)	千円		10,554	11,016	8,976
	人件費	人		1	1	
	正規職員従事人数	人		1	1	
	延べ業務時間	時間		477	477	
	人件費計(B)	千円		1,867	1,892	
※事業分割のため平成27年度決算より記載。	トータルコスト(A)+(B)	千円		12,421	12,908	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
田舎暮らしを希望する都会のUターン希望者が増加しており、相談件数も年々増加している。	ワンストップ窓口を提供するため、定住支援専門スタッフとして定住企画員(2名)を増員した。平成28年度、定住推進員に女性スタッフの配置。平成29年度においては、1名を地域おこし協力隊で募集し、外の目線による相談体制の強化を予定している。	女性目線に立った相談体制の強化を図ることが求められている。

事務事業名	定住支援員配置事業(専属スタッフ配置)	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
-------	---------------------	-----	-------	-----	------------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由																		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒																			
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？																				
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？																				
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒																			
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？																				
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	地域おこし協力隊を活用することで、外からの目線による相談体制の強化を図ることができる。																		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない																				
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	人口減少、特に人口の社会減がさらに進むとともに空き家が増加し、地域の活力が衰退する。																	
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有																				
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由																		
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	現状、類似事業がない。																			
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由																		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	第2次雲南市総合計画において、人口の社会増を最優先の課題として取り組むには、事業費の削減は難しい。																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																				
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由																		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	相談件数が増えている上、空き家や農地など移住者のニーズも多様化しており、休日も含め即時対応している。要望に対応できる空き家等の情報収集・調査についても、きめ細かく数多く対応するためには、削減の余地はない。																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																				
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由																		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	移住定住相談者には全て平等に対応している。空き家についても、広く活用の呼びかけを行っている。																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である																				
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)																		
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																			
定住推進員・企画員によるきめ細やかな対応により、移住・定住実績が上がっている。定住推進員3名のうち1名を地域おこし協力隊を活用し、外からの視点での相談対応等により体制の強化を図る。																					
① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)			<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上	●																			
	維持		×																		
	低下	×	×																		
定住推進員・企画員によるきめ細やかな対応により、移住・定住実績が上がっている。定住推進員3名のうち1名を地域おこし協力隊を活用し、外からの視点での相談対応等により体制の強化を図る。			廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																		